

# うつのみやこども賞だより

平成19年度 第5回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

## 《今月選ばれた本》

### 「下町不思議町物語」

香月日輪 / 作 (岩崎書店)



#### ～読んだ本の感想より～

直之が高塔さんを師匠と呼ぶのが面白かった。

耕太がテストをやぶいたのは、ひどすぎると思った。

関西からやってきて、つらいこともたくさんあったのに、元気に明るくふるまっている直之がすごいと思った。

直之がいなくなったときは、ハラハラしました。

トトロやネコタクがいたり、周りの人も不思議で面白かった。

最後におばあちゃんと仲良くなれたのがよかった。

物語に自分が入り込んでいる感じになり、熱中してしまった。

師匠がいい人だなあと思いました。

#### 「元気じるしの夏物語」

竹内もと代 / 作 (文研出版)

しじみは川でしかとれないことを初めて知った。あずさと葉子と比呂の三人だけの秘密というところがよかった。

さいごの別れがかなしかった。

海の良さやかわさがよく書けていました。

大人にないしょで、きり伝下に泳いで貝を取りに行くなんてすごいと思った。

さくた兄ちゃんをむかえる時や、台風の中、さくた兄ちゃんを追いかける所がわくわくした。

冒けんっておもしろそう。

#### 「たたみの部屋の写真展」

朝比奈蓉子 / 作 (偕成社)

タモツとユウイチがカメの池を掘りに行っただけなのに、こんなことになるとは思わなかった。

亡くなった人のかわりを演じるのは誰もいやだと思うのに、タモツは心のやさしい人だと思いました。

宝箱をほりだすところが面白かった。

認知症って大変だなと思いました。

タモツとおばあさんが肉じゃがを作るところが1番よかった。

最後におばあさんがなつみさんをわかってよかった。

この写真展には強い思いがこめられてると思いました。

#### 「夕暮れのマグノリア」

安東みきえ / 作 (講談社)

人は良い所と悪い所のまだら模様だという言葉がでてきて、きらいたった人とかの良い所をさがすようになりました。

ひとつひとつの場面の絵があたまの中でそうぞうできました。

いろいろ話があってとてもおもしろかった。

主人公がせいちょうしていく様子がよくわかった。

灯子がいろいろな人とだんだん仲良くなっていくのがわかった。

マグノリアの歌が聞こえたような気がした。

最後にマグノリアの木が切られなくてよかった。